

Viewpoint

軍の食糧倉庫のあった方正県に2万人もの開拓民が避難してきたが、日本軍は既に撤退して、遼東ソ連軍の猛攻や言語を絶する劣悪な環境下で帰国できたのは4分の

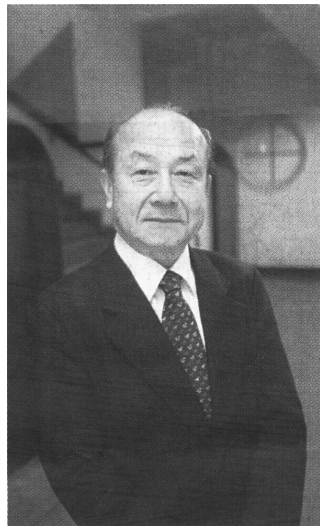
終戦65周年を迎えた本夏、筆者は日中科学技術文化センターが主宰する「現代史の歴史検証の旅」に参加し、中国のノモンハン、ハイル、チチハルなど中蒙国境の辺境を回ってきた。そこで耳にした状況にはなお敗戦の疼き感じさせるものが多く、戦後はまだ終わっていないとの思いを強くした。

この旅には、満蒙開拓団や旧満鉄の関係者が多く参加され、その体験談に心痛めた。終戦直前に19歳で現地徴兵され、国境の要塞で九死に一生で帰還した85歳の老兵は亡き戦友への慰霊に、ノモンハン戦で戦死された叔父上の遺影を抱いて現場でお詣りなど、涙無しには聞けない実話があった。

また旅の最後にはハルビン市郊外の方正県で日本人公墓を参拝したが、そこにも壮絶な悲劇があった。ソ連軍の侵攻に追われて遼東

旧満州の日ソ戦跡を巡って

拓殖大学名誉教授・茅原 郁生
同海外事情研究所客員教授



同胞の屍は方正県の中国農民の手で荼毘に付され、当時の周恩来総理の許可を得て近くの小高い丘に葬られ、今日まで日本人公墓として地元民によって祀られていることである。その隣には成人男性が徴兵された開拓村で残された老人、婦女子400名が集団自決された遺骨も公墓に祀られていた。これら公墓に合掌しながら日本はこれら惨劇から目をそらしたままでよいのか、と痛切な思いであった。

者の存在を抜きに日中関係や戦後は語れないのではないかと。また旅の主目的であったノモンハン戦跡の検証は、中蒙両軍の国境監視塔が点在する360度広がる荒涼たる草原から始まった。ノモンハン事件(ノモンゴルの国境防衛戦)は旧満州国とノモンゴルの国境紛争であったが、実態はハル八川を巡る関東軍と機甲戦力まで繰り出したソ連軍との前哨戦であった。関東軍はソ連軍の戦力評価を誤り、近代的機甲戦への認識不

角にあり、戦局の把握も困難で、旅の参加者からは辻正信参謀らの無謀と功名心への非難が集まっていた。多くの戦記書も認めているとおり、わが方の戦車戦力の劣勢を自兵戦で補っており、傲りに基づく戦略の誤りを現地の敢闘精神などで戦術的に補わせたという問題があった。その無謀さはノモンハン部落の外れにそり立つ鉄筋3階建ての戦争記念館で、ソ連戦車に日本兵が肉弾攻撃した火炎ヒンが多数陳列されていたのが物語っている。また戦

関東軍の一部参謀の傲りによって同事件は暴発したものである。その根底には近代化を進めるソ連軍に対する情報軽視があり、対ソ蔑視に近い精神主義が先行し、第一線部隊を悲劇に陥れた。これらの過ちが真摯に反省され、教訓とされることもなくその後の大戦でも犠牲は拡大した。

またチチハル郊外には北山要塞があり、地下70層の堅固な陣地で、攻防戦では日ソ両軍に多大の犠牲者を出していた。この北山要塞跡は戦争記念館となっており、ノモンハン戦争陳列館も含めて、今日では中国の愛国教育に活用され、多くの学生が訪れていた。北山要塞の丘一帯には何十台もプラスタックで実物大に模造されたソ連戦車や砲車が実戦的展開されており臨場感あるもので、今更何のためにこの疑念を抱かされた。満州国を舞台にソ連軍の不可侵条約を犯した対日攻撃の評価は、中国共産党政権にとって微妙なものになるが、これを「反ファシスト戦争」として反日教育に供している。これら反日教育の一方で、方正県の日本人公墓が丁寧に扱われている事態との対比には複雑な思いがした。

ともあれ今日も中国東北地方の辺境に残された戦争の後遺症はなお生々しく、日本人として忘却の彼方に置き去りにするわけには行かない思いを強めた旅であった。(かやはら・いくお)

1程度で大部分の方は餓死、凍死された由。旧軍食糧倉庫の前で胸が締め付けられる思いであった。せめてもの救いは、累々とした

そして中国方正県の農民が負しい中で日本人を丁重に用ってくれたご好意こそ日中草の根交流の原点ではないかとも思った。中国の奥地で知られることもない積善や痛みを耐えながら黙している関係

な機甲部隊にどのように立ち向かったのか、犠牲の多い理由が納得できた。

実際、前線司令部のあったカンシル廟(ツマ教寺院)もわずかに山砲用のトーチカが守る平原の一

足と小松原師団の兵力の逐次投入というミスが重なって戦局は大敗北を喫した。

ここでノモンハン戦史を詳述する紙幅はないが、隠れる地形的起伏もない一面の草原に立つて圧倒的優勢

「侵されても侵さない」対ソ隠忍姿勢を指示した。現地関東軍はその意に反して「ソ満国境紛争処理要綱」を策定し、積極姿勢による対ソ牽制を狙っていた。これに対して陸軍中央は当時、独伊との三国同盟を巡る確執などに忙殺されて指導不十分であり、加えて